



## わが子の人生を豊かにする魔法の能力とは？

～それは数字で表すことのできない、言わば『生きる力』～

かつては大学に入学してしまえば就職先が用意されていて、入社すれば年功序列、終身雇用だったので将来の安定を手に入れるために勉強を頑張れば良い時代でした。

しかし今は大企業でも数千人規模のリストラを敢行しますし、安定の代名詞だった公務員も4割近くは非正規雇用のスタッフで現場を回している時代です。

今の親世代までは「**学歴**（どの学校出身か）」が評価された時代ですが、今の時代は「**能力・人柄**」（今の君は何ができるのか？）を評価されるようになりました。

### 「認知能力」と「非認知能力」

認知能力とは通知表の左側、数学が「5」、英語が「3」・・・のように数字で表すことができる能力のことです。我々親世代までは良い学校に行けば安定した将来が待っていたので、この認知能力さえ伸ばせばよかったです。

しかし、先述の通り今の時代は学歴ではなく能力・人柄で評価されるようになってきました。そこで重要になってくるのが非認知能力なのです。

非認知能力とはいわば通知表の右側の部分です。具体的に挙げると「忍耐力」「意欲」「自己抑制」「目標への情熱」「社会的スキル」「協調性」「信頼」「共感」「社交性」「敬意」「思いやり」「自尊心」「自信」「楽観性」・・・などがあります。

文部科学省も新しい学習指導要領に『育成すべき資質・能力の三つの柱』の一つとして「学びに向かう力・人間性（どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか）」という非認知能力を挙げています。

### ノーベル賞受賞者が断言「人生は非認知能力で決まる」

アメリカの心理学者デイヴィッド・ウィカート氏は経済的な差が無い家庭の幼児を調査対象とし、40歳になるまで追跡調査をしました。

その結果、幼児期に非認知能力に重点を置いた教育を受けた子供たちの方が40歳時点での収入が多く、犯罪率が低いことが分かったのです。（詳しくは「ペリー就学前プロジェクト」で調べてみてください）

その後、アメリカの経済学者でノーベル賞を受賞したジェームズ・ヘックマン氏はペリー就学前プロジェクトの結果も踏まえ、脳医学の見地と経済学者の視点で分析を続けた結果、著書『幼児教育の経済学』で、**人生で成功するかどうかは非認知能力で決まると書かれています。**

### 一朝一夕では身につかないのが非認知能力

ご想像の通り、非認知能力はすぐに身につくものではなく、長年かけて育まれるものです。

特に重要になってくるのは幼児期～小学校の低学年の期間です。この頃が非認知能力を伸ばすゴールデンエイジと呼ばれています。（なので育脳寺子屋 MAC も幼児～小3の入

塾を推奨しているのです）

この頃の子供はイメージで言うともだまだ乾いたスポンジ状態。この頃に良い色を流せばよい色に染まりますし、逆も然りです。一度悪い色に染まると、なかなか良い色に染めなおすことは難しいのです。

### 家庭ではどのように非認知能力を伸ばすのか？

ご家庭ではどのようなアプローチで非認知能力を伸ばすことができるのでしょうか？いくつか例を挙げると、

#### 【自分で選択する経験をさせる】

⇒失敗をしないよう親が先回りして口を出すのではなく、子供自身に選択権を持たせることで自立心が育まれます。

#### 【夢中になれるものを見つける】

⇒夢中になれることに取り組み続けることで試行錯誤を重ね、主体性が身に付く。親はそれを見守り、共感することで自尊心や自己肯定感が育まれる。（ゲームは論外！）

#### 【「ありがとう」と言う状況を作る】

⇒お手伝いなどをしてもらい、感謝の言葉をかけるシチュエーションを意識的に作る。おすすめはご家庭の中で「これはわが子だけの仕事（他の誰も代わりにしない仕事）」を作ること。例えば毎日の新聞を取ってくるとか、ごみの日は二階のゴミを集めて来る・・・など簡単なことで良いのです。そうすると責任感も芽生えます。

### MACの教育理念はずっと非認知能力を伸ばすこと

MACはこの塾が出来て以来、教育理念は変わっておらず「社会に出てから困らない人に育てる」という思いで日々指導をしています。

当然塾なので成績も大事ですが、それ以上に勉強を通してどのように人間的な成長ができるかを重要視しています。（逆に言えば、それが出来れば成績は放っておいても伸びます）

今回どのようにしたら学習を通して非認知能力を伸ばすことができるかを調べていたところ、実はすべてMACで実践していることで驚いてしまいました（笑）

良い機会なので、MACの指導内容と合わせて紹介します。

#### 【目標設定と計画】

⇒子どもに目標を立てさせ、それを達成するための計画を立てることで、自己管理能力を養います。

※MACでは小学1年生から自分で取り組むテキストの順番を決め、残り時間を見ながら自分で学習を進めます。その学習方法を通して、時間的な感覚や段取り能力を身に付けてもらっています。

#### 【挑戦的な問題を解決】

⇒学業的な問題やパズル、クイズなどを通じて、問題解決能力を高めましょう。子どもが自分で考えて解決策を見つける経験は、非認知能力を育む一助になります。

※MACでは育脳トライアルのような答えが一つでない問題や、すぐにクリアできない立体パズルなどの課題が多々あります。それらをじっくり考え、答えを導き出すことでクリアし、成功体験を積み重ねてもらっています。

#### 【協力と協調】

⇒グループワークや友達との協力を通じて、協調性やコミュニケーション能力を伸ばします。

※小学部の授業は先生からの一方通行ではなく、生徒同士で教え合う時間も取っています。自分さえ良ければ良いという考えではなく、自分が助けられることは助けるという経験を授業の中でも取り入れています。

### 子の成長は「3歩進んで2歩下がる」

MACは多くの生徒さんが小1から入塾し中3まで9年間通われますが、その間ずーっと右肩上がり成長するわけではありません。

最初は「楽しい！楽しい！」で通っていたのがだんだん課題が難しくなり、クラブを始めるとそっちの方が楽しくなって勉強が嫌に・・・でも、それも乗り越えたら「やりたいことも、やらないといけないことも両方しなくちゃな・・・」という考えになったり・・・と、徐々に精神的に成長していくのです。

その心の変化や葛藤が非認知能力を伸ばすこととなります。これからもわが子の数字の評価だけではなく、数字に表れない部分の成長をしっかりと見てあげてくださいね。